

平成23年度八重山群島病害虫発生予報第10号(1月予報)

I 1月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	30	30
平年並	40	40	40
低い(少ない)	30	30	30

(平成23年12月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	18.6	21.2	16.5	130.6	85.9

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 1月の発生予報および防除上の注意事項

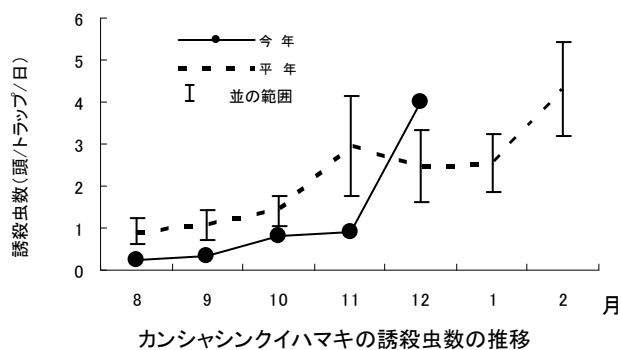
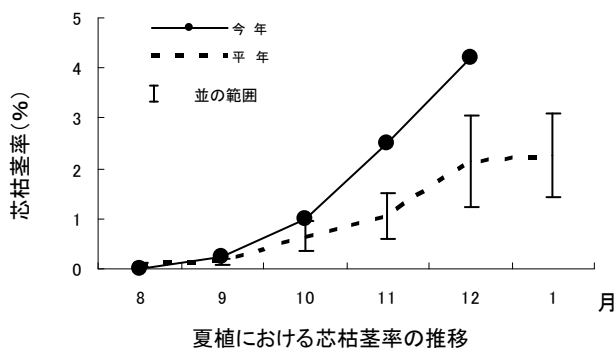
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : 多

予報の根拠

- a 12月中旬の調査の結果、夏植圃場での芯枯茎率は4.2%(前年2.7%、平年2.2%)と平年よりやや高かった。また、一部圃場で多発していた。
- b 平年と比較して、夏植での芯枯れの発生が多い状態で推移している。
- c 12月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.0頭(前年2.3頭、平年2.5頭)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 圃場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため除去する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、食入初期の防除を徹底する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
- e 平成23年度病害虫発生予察注意報第2号(平成23年12月28日付)参照。

2 マンゴー

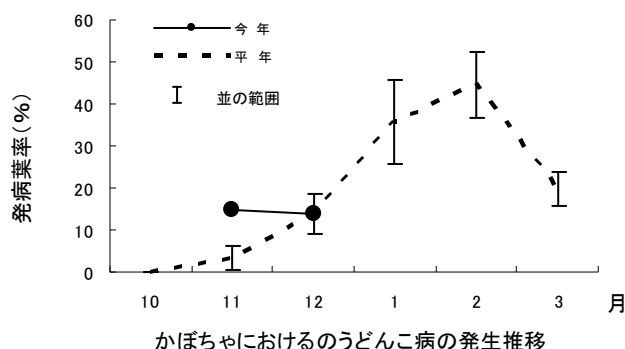
- 炭疽病、軸腐病およびかいよう病の防除対策
 - a 12月下旬の調査の結果、炭疽病の発病葉率は2.4%(前年0%)、かいよう病の発病葉率は0.4%(前年0.1%以下)であった。
 - b 不要な新梢や罹病枝や葉は発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
 - c 着果後の被害軽減のため、この時期からの予防防除に努める。
 - d 出蕾がみられる園では、花芽に対して薬害の少ない薬剤を選定する。
- ハダニ類の防除対策
 - a 12月下旬の調査の結果、一部圃場で発生がみられた。
 - b 多発すると防除が困難になるため、早期発見・早期防除に努める。
 - c 出蕾がみられる園では、花芽に対して薬害の少ない薬剤を選定する。

3 かぼちゃ

(1) うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

12月下旬の調査の結果、発病葉率は13.7%(平年13.9%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
- b 着果期以降は本病の発生が増加しやすいので、予防散布を行う。
- c 着果後は防除を徹底し、収穫時までできるだけ多くの健全葉を確保する。
- d 多発すると防除が困難になるので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。

4 さやいんげん(施設)

- 菌核病の防除対策
 - a 12月下旬は曇天の日が多く、気象予報によると向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生を助長すると考えられる。
 - b 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
 - c 多湿時に発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風を良くする。
 - d 例年発生時期に当たるので、予防防除に努める。